第 17 回米百俵賞受賞

（平成 25 年 6 月 15 日表彰）

小林　茂（長岡市）

アフリカのストリートチルドレンの生き様や新潟水俣病の被害者家族が暮らす様子を描いた映画制作や講演活動を通して、教育、福祉などの問題を広く発信した。

■受賞時プロフィール

小林氏は、大学卒業後、ハンセン病や水俣病患者救済活動に関わる傍ら、映画制作を学んだ。平成 4 年に撮影した「阿賀に生きる」では、第 1 回ＪＳＣ賞を受賞。当時、ドキュメンタリー映画が興行用の一般映画館で上映される先駆けとなった。全県下 100 か所以上の自主上映に携わり、新潟県から映画を通して文化の発信をするともに、県内のネットワークを築いた。

「阿賀に生きる」上映から 20 年を迎えた平成 24 年には、16 ミリフィルムに再制作し、全国 10 か所以上でリバイバル公開。自ら 16 ミリ機材を貸出すほか、字幕や音声によるユニバーサル上映を行い、誰もが映画を楽しめる方法を企画するなど、広く世に発信した。

また、氏は平成 6 年、アフリカ・ウガンダのエイズ孤児たちを写真取材したことをきっかけに、アフリカの子どもたちと交流し支援を続けている。

ケニアで NGO「モヨ・チルドレン・センター」を主宰する松下照美氏とともに、「子どもたちの家」を建設。アフリカの子どもたちの現状を広く知ってもらうため、ストリートチルドレンを描いた映画「チョコラ！」の上映と併せ地域での講演会活動も継続中である。独自に追求し続けた社会問題や人間の生き方

をテーマにした講演内容は、小・中学生や保護者、教育関係者など、多くの聴講者から支持を得た。さらに、短編映画「放課後」の上映をきっかけに、各地で障害児を受け入れる学童保育所が増えたり、映画で紹介された学童保育所の指導員が、その後、氏とともにアフリカに赴き子どもたちにカメラを向けるようになるなど、氏の活動は多くの人々に多大な影響を与えている。

■受賞後の活動

小林氏は、透析生活を続けながらも平成 28 年、新潟県の豪雪地域の暮らしを描いた「風の波紋」を制作。さらに、令和３年現在、性虐待をめぐる「魂のきせき」の製作に取り組むなど、様々な分野に活動の場を広げている。

■主な受賞歴

○平成５年　日本映画撮影監督協会第１回ＪＳＣ賞

○平成 18 年　毎日映画コンクール記録文化映画賞（長編）　ほか

▲アフリカにて